

# JAL 愛媛原告を支える会



発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会  
 連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内  
 松山市三番町8-10-2 Tel 089-945-4526

(2月16日、国民支援共闘第7回総会参加者 (JAL 不当解雇撤回ニュースより))



意見には深くうなづいた。昨年9月23日、最高裁棄却によって確定した当判決は、刑事事件なら冤罪であり再審無罪(＝解雇無効)とされるべき内容だ。できることなら、あの2010年年末に戻って高率で確立されていた争議権を行使したい。そうすれば、解

## JAL 経営陣は事故の歴史に学ぶべき

JAL 不当解雇撤回争議団  
 松山市在住 林 恵美

2月16日、国民支援共闘会議の第7回総会が都内で開催され、予想を大幅に上回る200名以上の支援者が全国から集まって下さった。前段の意見交換会でも、7年目に入った今年こそ解雇撤回を勝ち取るために様々な意見が出された。中でも「管財人の争議権への不当介入を断罪した高裁判決をもっと生かすべきである」とのご

意見には深くうなづいた。昨年9月23日、最高裁棄却によって確定した当判決は、刑事事件なら冤罪であり再審無罪(＝解雇無効)とされるべき内容だ。できることなら、あの2010年年末に戻って高率で確立されていた争議権を行使したい。そうすれば、解

雇は強行できなかった。不当な解雇であった事が明確に証明されたのだ。しかし、JALは形式的な謝罪はしたが解決に向けて動かない。3労組が提出した統一要求について合同団交を申し入れても「必要ない」の一点張り。国交大臣が責任の一端を認める発言をしたにも関わらず、動こうとしないJALに首を傾げる国会議員も複数いた。

JALは国策会社として設立されたが、職場は労働組合に団結し要求を次々と実現していった時代があった。それが高度成長期に入り、儲け優先の体制を作るため労働対策の専門家が日経連から送り込まれ、運輸官僚が社長となった。力ずくと謀略の凄まじい組合潰しが行われた。果たせるかなコスト優先の経営方針は連続事故を生んだ。しかし現場は、どれほど差別されてもその良心にかけて懸命に安全を守る運動を離さなかった。当時のドラマティックな話を何度先輩たちから聞いたことだろう。安全の基盤は自由に物が言える明るい職場から生まれ、それには労働者の信頼関係が不可欠である。JALは悲劇を繰り返さないため、直ちに解決の話し合いを始めるべきだ。私達は決してあきらめない。

## 家族みんなで応援しています

西予市明浜町段畑みかん農家  
 宇都宮利彦さん一家

利彦さん

裁判で不当な判決が出て悔しいだろうに、山口団長はじめ、みなさんお元気なのは頭が下がります。南スーダン自衛隊派遣に民間機を使用し、戦争法や共謀罪などと絡めて、国がJALを軍事利用したいと目論んでいたことがだんだん分かってきました。国の片棒を担ぎ、利用客の命をないがしろにするやり方は、空の安全を脅かす恐ろしいことで、怒りを感じます。世論を巻き込んで、それを阻止したい。今年こそ、もの言う人たちを職場に戻せ!

あきさん(利彦さんのお子さん)

読書が大好き。「安全な翼を求めて」も「青空」も読みましたよ。応援しています!

孝子さん(利彦さんの妻)

長い闘いになって大変でしょうが、頑張ってください。

## 私も応援します

あおいさん(利彦さんのお孫さん)

大池さんがみかん収穫の手伝いに来てくれてJALの解雇問題を知り、インターネットでいろいろ調べました。実際に話を聞いて、びっくりしました。いざという時にベテランがいらないのは困ります。JALには乗りたくなくなってしまいますね。電通のまつりさんのような人を出さないためにも、ものは言い続けたいと思います。結果がすべてじゃないと思います。

しんちゃん(あおいさんの夫)

原告団の人たちは、生き生きして前向きだなあと感じました。後に続く人たちのためにも、みなさんの闘いは無駄にはならない、頑張ってください。(東京・蒲田で開かれた農民連のレセプションで、愛媛出身の原告、林さん、大池さん、横浜からミカン収穫の手伝いに来てくれた下村さんと一緒にみかんの販売をしました。)

# 勝つまで、がんばる!!



(1月16日、東京蒲田 農民蓮レセプション)



(1月25日、JR松山駅前宣伝)

上、下写真  
(3月13日JAL本社前座り込み行動での支援者と林恵美さん、大池ひとみさん)



(2月16日、国民支援共闘第7回総会会場で)



(2月22日、県庁前宣伝)



(3月16日、JMITU通信産業本部四国ストライキ支援集会)